



平成29年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年11月2日

上場会社名 サントリー食品インターナショナル株式会社
 コード番号 2587 URL <http://www.suntory.co.jp/sbf/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小郷 三朗

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員グローバルファイナンス部長 (氏名) 稲田 晴久

TEL 03-3275-7022

四半期報告書提出予定日 平成29年11月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期第3四半期の連結業績（平成29年1月1日～平成29年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第3四半期	1,095,022	2.7	76,842	3.2	73,190	1.4	37,029	1.7
28年12月期第3四半期	1,065,818	4.4	74,440	6.5	72,171	17.1	36,423	△5.7

(注) 包括利益 29年12月期第3四半期 58,445百万円 (－%) 28年12月期第3四半期 △45,083百万円 (－%)

(参考) EBITDA 29年12月期第3四半期 1,436億円 (2.9%) 28年12月期第3四半期 1,396億円 (7.6%)

指標の定義、計算方法等の詳細は「セグメント情報等」9ページをご覧ください。

のれん償却前四半期純利益 29年12月期第3四半期 589億円 (1.6%)

28年12月期第3四半期 580億円 (△0.4%)

(注) のれん償却前四半期純利益 (親会社株主に帰属する四半期純利益+のれん償却額)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第3四半期	119.84	—
28年12月期第3四半期	117.88	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年12月期第3四半期	1,428,468	634,515	40.8
28年12月期	1,366,000	602,447	40.4

(参考) 自己資本 29年12月期第3四半期 582,720百万円 28年12月期 552,229百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期	—	34.00	—	39.00	73.00
29年12月期	—	37.00	—	—	—
29年12月期 (予想)	—	—	—	37.00	74.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成29年12月期の連結業績予想（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

(%表示は、対前年増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,445,000	2.4	98,000	4.8	93,000	1.9	47,000	2.0	152.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

(参考) EBITDA 29年12月期通期 (予想) 1,870億円 (3.4%)

のれん償却前当期純利益 29年12月期通期 (予想) 763億円 (2.1%)

(注) のれん償却前当期純利益 (親会社株主に帰属する当期純利益+のれん償却額)

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社 （社名） 、 除外 一社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年12月期3Q	309,000,000株	28年12月期	309,000,000株
② 期末自己株式数	29年12月期3Q	－株	28年12月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年12月期3Q	309,000,000株	28年12月期3Q	309,000,000株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想に関する記述は、当社及び当社グループが本資料の発表日現在で入手可能な情報から得られた判断に基づいていますが、リスクや不確実性を含んでいるため、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、当社及び当社グループの事業を取り巻く経済情勢、市場動向、為替レート等に関わる様々な要因により、記述されている業績予想とは大幅に異なる可能性があることをご承知おき下さい。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(セグメント情報等)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、お客様の嗜好・ニーズを捉えた上質でユニークな商品を提案し、お客様の生活に豊かさをお届けするという考えのもと、ブランド強化や新規需要の創造に注力したほか、各社の知見を活かしたコスト革新による収益力強化や、グループ全体での品質の向上に取り組みました。また、将来の持続的な成長に向け、各エリアにおける事業基盤の強化にも注力しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間（2017年1月1日～9月30日）の売上高は1兆950億円（前年同期比2.7%増）、営業利益は768億円（前年同期比3.2%増）、経常利益は732億円（前年同期比1.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は370億円（前年同期比1.7%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

なお、当社は、グローバル経営を強化し、更なる成長を加速させるため、2017年4月1日付で組織変更を実施しました。これに伴い、従来、「国内事業」「国際事業」としていた報告セグメントを、第2四半期連結累計期間より「日本事業」「欧州事業」「アジア事業」「オセアニア事業」「米州事業」に変更しました。

また、各報告セグメントの業績をより適正に評価、管理するため、報告セグメントの利益又は損失の算定方法を変更しています。

変更の詳細は（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項、（セグメント情報等）報告セグメントの変更等に関する事項をご参照ください。

前年同期との比較は、前第3四半期連結累計期間の数値を、変更後の報告セグメントの区分及び、変更後の報告セグメントの利益又は損失の算定方法に組み替えています。

[日本事業]

日本では、重点ブランドの強化に加え、新たな価値を持つ商品の提案を通じ、新規需要の創造に取り組みました。その結果、販売数量は前年同期を上回りました。

「サントリー天然水」は、“清冽でおいしい水”“ナチュラル&ヘルシー”をブランド独自の価値として訴求し、主力のミネラルウォーター「サントリー天然水」が引き続き好調に推移しました。更に、4月に発売した「サントリー天然水 PREMIUM MORNING TEA レモン」の寄与もあり、ブランド全体の販売数量は前年同期を大きく上回りました。

「BOSS」は、引き続き、主力商品である「プレミアムボス」「レインボーマウンテンブレンド」「贅沢微糖」「無糖ブラック」「カフェオレ」に注力したことに加え、「BOSS」の発売25周年を記念した「プライドオブボス」を9月に発売し、185g缶市場の活性化を図りました。また、コーヒーの新たな飲用スタイルを提案する商品として、4月に発売した、ペットボトルの「クラフトボス ブラック」が好調に推移しました。これらの結果、ブランド全体の販売数量は前年同期を上回りました。

「伊右衛門」は、3月に中味・パッケージをリニューアルし、お客様が求める「上質な急須のお茶」の色・香り・呈味をペットボトルのお茶で実現しました。積極的なマーケティング活動も奏功し、販売数量は前年同期を上回りました。

「サントリー烏龍茶」は、烏龍茶の独自の価値と美味しさをあらためて体感いただくために5月に中味・パッケージをリニューアルし、販売数量は前年同期を上回りました。

特定保健用食品は、前年を下回る販売数量となりましたが、6月に「サントリー 特茶 ジャスミン」を発売する等新たなユーザーの取り込みを図りました。

収益性向上に向けた取組みにも注力しました。原材料費の低減等、生産コスト削減に取り組んだほか、販売促進費・広告宣伝費を効率的に投入しました。

自動販売機事業では、引き続き、法人営業に注力しました。缶やペットボトルの自動販売機専用商品を発売したほか、カップコーヒーマシン・給茶機等、様々な機材の提案を通じ、オフィス内の飲料需要の取り込みを図りました。

これらの結果、日本事業の売上高は6,885億円（前年同期比1.5%増）、セグメント利益は478億円（前年同期比5.1%増）となりました。

[欧州事業]

欧州では、主力ブランドを中心に、積極的なマーケティング活動を展開しました。

フランスでは、小容量商品に注力し、果汁入り炭酸飲料「Orangina」と果汁飲料「Oasis」の販売数量が前年同期を上回りました。また、昨年5月に発売した低糖のプレミアムアイスティー「May Tea」の販売も好調に推移しました。

英国では、積極的なマーケティング活動により、スポーツ飲料「Lucozade Sport」が好調に推移しましたが、エナジードリンク「Lucozade Energy」は前年同期を下回り、「Lucozade」ブランドの販売数量は前年同期を下回りました。果汁飲料「Ribena」の販売数量も前年同期を下回りました。

スペインでは、引き続き業務用チャネルに注力し、トニックウォーターを中心に「Schweppes」の販売が堅調に推移しました。

アフリカにおいては、ナイジェリアを中心に事業基盤の整備に取り組みました。

これらの結果、欧州事業の売上高は1,856億円（前年同期比2.9%増）、セグメント利益は308億円（前年同期比4.6%減）となりました。

[アジア事業]

アジアでは、主力ブランドの強化に加え、各国において営業・流通体制の強化に取り組みました。

清涼飲料では、ベトナムにおいて、エナジードリンク「Sting」と茶飲料「TEA+」の積極的なマーケティング活動を実施し、売上は前年同期を上回りました。インドネシアでは、ジャワ島を中心に配荷力の向上等、営業・流通体制の強化に取り組み、カップ飲料「Okky」の販売が好調に推移しました。

健康食品では、主力市場のタイにおいて、流通体制を見直し店舗への配荷力を高めたこと等により、「BRAND'S Essence of Chicken」の販売が伸長しました。なお、「BRAND'S」ブランドの更なる強化に向け、5月からCerebos Pacific Limited及びその子会社が、BRAND'S SUNTORYの名称で事業を開始しました。また、よりお客様のニーズを迅速かつ的確に捉えるため、6月にマーケティング等の主要な機能を、シンガポールからタイに移しました。

これらの結果、アジア事業の売上高は1,294億円（前年同期比8.7%増）、セグメント利益は158億円（前年同期比22.4%増）となりました。

[オセアニア事業]

オセアニアでは、主力ブランドを中心に積極的なマーケティング活動を行い、販売拡大に取り組みました。

ニュージーランドでは、事業環境が厳しい中、エナジードリンク「V」と果汁飲料「Just Juice」を中心に、新フレーバーの投入や積極的なマーケティング活動を行いました。

オーストラリアでは、「V」でフレーバー展開を進めたほか、スポーツ飲料「Maximus」の店頭活動を強化し、販売拡大に取り組みました。

これらの結果、オセアニア事業の売上高は299億円（前年同期比5.0%増）、セグメント利益は34億円（前年同期比5.7%減）となりました。

なお、グループ経営を一層推進するため、6月からニュージーランド及びオーストラリアにおける子会社が、FRUCOR SUNTORYの名称で事業を開始しました。

[米州事業]

米州では、ノースカロライナ州でペプシコブランドの更なる販売強化に取り組み、水やコーヒー飲料等、伸長している非炭酸カテゴリーにも注力しました。

米州事業の売上高は616億円（前年同期比2.9%増）、セグメント利益は72億円（前年同期比4.7%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、受取手形及び売掛金、棚卸資産の増加等により、前連結会計年度末に比べ625億円増加して1兆4,285億円となりました。

また、負債は、支払手形及び買掛金の増加等により、前連結会計年度末に比べ304億円増加して7,940億円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加、為替換算調整勘定の増加等により、前連結会計年度末に比べ321億円増加して6,345億円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2017年12月期通期の業績予想につきましては、事業の状況および為替の影響を考慮し、2017年2月13日に公表しました業績予想を下記のとおり修正しています。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 1,430,000	百万円 98,000	百万円 95,500	百万円 47,000	円 銭 152.10
今回修正予想 (B)	1,445,000	98,000	93,000	47,000	152.10
増減額 (B-A)	15,000	—	△2,500	—	—
増減率 (%)	1.0	—	△2.6	—	—
(ご参考) 前期実績 2016年12月通期	1,410,765	93,481	91,224	46,056	149.05

(参考) EBITDA 2017年12月通期 (予想) 今回修正予想1,870億円 (前回発表予想1,860億円)

のれん償却前当期純利益 2017年12月通期 (予想) 今回修正予想763億円 (前回発表予想752億円)

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	84,127	91,662
受取手形及び売掛金	161,037	198,506
商品及び製品	46,378	58,580
仕掛品	4,406	6,051
原材料及び貯蔵品	23,953	27,781
その他	54,858	55,772
貸倒引当金	△217	△847
流動資産合計	374,544	437,508
固定資産		
有形固定資産	338,775	337,493
無形固定資産		
のれん	407,283	399,007
商標権	150,827	159,736
その他	64,204	62,084
無形固定資産合計	622,316	620,829
投資その他の資産		
投資有価証券	10,290	10,173
その他	20,553	22,561
貸倒引当金	△582	△180
投資その他の資産合計	30,261	32,555
固定資産合計	991,353	990,877
繰延資産	103	83
資産合計	1,366,000	1,428,468

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	116,081	141,367
電子記録債務	12,742	16,894
短期借入金	72,239	84,781
リース債務	7,074	6,720
未払法人税等	15,849	14,070
賞与引当金	8,002	11,319
その他	178,389	187,472
流動負債合計	410,378	462,628
固定負債		
社債	40,000	40,000
長期借入金	199,283	171,188
リース債務	11,670	9,087
役員退職慰労引当金	246	282
退職給付に係る負債	8,784	9,348
その他	93,188	101,418
固定負債合計	353,174	331,325
負債合計	763,552	793,953
純資産の部		
株主資本		
資本金	168,384	168,384
資本剰余金	183,628	183,828
利益剰余金	199,116	212,662
株主資本合計	551,128	564,874
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,020	2,168
繰延ヘッジ損益	130	△497
為替換算調整勘定	2,973	19,778
退職給付に係る調整累計額	△4,023	△3,604
その他の包括利益累計額合計	1,100	17,845
非支配株主持分	50,218	51,794
純資産合計	602,447	634,515
負債純資産合計	1,366,000	1,428,468

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
売上高	1,065,818	1,095,022
売上原価	469,306	482,483
売上総利益	596,511	612,539
販売費及び一般管理費	522,071	535,697
営業利益	74,440	76,842
営業外収益		
受取利息	306	308
受取配当金	84	81
持分法による投資利益	544	464
その他	894	983
営業外収益合計	1,829	1,838
営業外費用		
支払利息	3,396	2,036
為替差損	—	2,832
その他	703	622
営業外費用合計	4,099	5,490
経常利益	72,171	73,190
特別利益		
固定資産売却益	52	113
関係会社株式売却益	—	150
その他	47	39
特別利益合計	100	302
特別損失		
固定資産廃棄損	1,704	1,413
震災関連費用	3,589	—
組織再編関連費用	3,219	1,582
製品回収関連費用	—	1,399
その他	583	365
特別損失合計	9,096	4,761
税金等調整前四半期純利益	63,174	68,731
法人税等	22,076	25,924
四半期純利益	41,097	42,807
非支配株主に帰属する四半期純利益	4,673	5,777
親会社株主に帰属する四半期純利益	36,423	37,029

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益	41,097	42,807
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△38	152
繰延ヘッジ損益	△557	△627
為替換算調整勘定	△85,257	15,603
退職給付に係る調整額	170	443
持分法適用会社に対する持分相当額	△497	66
その他の包括利益合計	△86,180	15,638
四半期包括利益	△45,083	58,445
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△44,053	53,775
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,029	4,670

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの区分方法の変更)

当社は、グローバル経営を強化し、更なる成長を加速させるために2017年4月1日付で組織変更を実施しました。これに伴い、従来、「国内事業」「国際事業」としていた報告セグメントを、第2四半期連結累計期間より「日本事業」「欧州事業」「アジア事業」「オセアニア事業」「米州事業」に変更しました。前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成しています。

(報告セグメントの利益又は損失の算定方法の変更)

当社は、各報告セグメントの業績をより適正に評価、管理するため、従来、各報告セグメントに配分していたグループ管理費用を、第2四半期連結累計期間より全社費用として調整額に含めています。前第3四半期連結累計期間のセグメント利益は、変更後の報告セグメントの利益又は損失の算定方法に基づき作成しています。

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	欧州	アジア	オセアニア	米州			
売上高								
外部顧客への売上高	678,126	180,370	118,967	28,440	59,913	1,065,818	-	1,065,818
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5	1,245	57	3	-	1,312	△1,312	-
計	678,131	181,616	119,025	28,444	59,913	1,067,130	△1,312	1,065,818
セグメント利益(注) 3	45,432	32,274	12,931	3,639	7,601	101,881	△27,440	74,440

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していないのれん償却額及び全社費用です。全社費用は、当社において発生するグループ管理費用です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

3. 報告セグメントごとのEBITDAは次のとおりです。

(単位: 百万円)

	日本	欧州	アジア	オセアニア	米州	合計	調整額 (注) 1	調整後合計
セグメント利益	45,432	32,274	12,931	3,639	7,601	101,881	△27,440	74,440
減価償却費及び のれん償却額	27,629	6,593	5,819	1,162	2,292	43,497	21,686	65,184
EBITDA(注) 2	73,062	38,868	18,751	4,801	9,894	145,378	△5,754	139,624

(注) 1. EBITDAの調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。

全社費用は、当社において発生するグループ管理費用です。

2. EBITDAは、セグメント利益に減価償却費及びのれん償却額を加えた金額です。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成29年1月1日至平成29年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	欧州	アジア	オセアニア	米州			
売上高								
外部顧客への売上高	688,538	185,623	129,352	29,861	61,647	1,095,022	-	1,095,022
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	1,144	393	5	-	1,546	△1,546	-
計	688,540	186,767	129,746	29,866	61,647	1,096,568	△1,546	1,095,022
セグメント利益 (注) 3	47,764	30,804	15,830	3,432	7,246	105,078	△28,236	76,842

- (注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していないのれん償却額及び全社費用です。全社費用は、当社において発生するグループ管理費用です。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。
3. 報告セグメントごとのEBITDAは次のとおりです。

（単位：百万円）

	日本	欧州	アジア	オセアニア	米州	合計	調整額 (注) 1	調整後合計
セグメント利益	47,764	30,804	15,830	3,432	7,246	105,078	△28,236	76,842
減価償却費及び のれん償却額	27,313	7,111	6,555	1,302	2,512	44,795	21,992	66,788
EBITDA (注) 2	75,077	37,915	22,386	4,735	9,758	149,874	△6,243	143,630

- (注) 1. EBITDAの調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、当社において発生するグループ管理費用です。
2. EBITDAは、セグメント利益に減価償却費及びのれん償却額を加えた金額です。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。